平成 19 年 12 月 11 日

国立市長　関口博 様

国立市東 3 丁目 17-24
えき未来くにたち　代表　関　堅

新国立高架駅デザイン案及び
駅周辺まちづくりプランの進め方に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥こととお慶び申し上げます。

私どもは、国立駅周辺まちづくりに関心を持ち、旧国立駅舎を保存・活用し、国立駅周辺のまちづくりに活かしたいと考えている「えき未来くにたち」という市民団体です。

現在、中央線三鷹_立川間連続立体交差事業が進捗しており、先行する武蔵境、東小金井、武蔵小金井の各駅は新駅デザイン決定の下、工事が進められておりますが、国立駅の新デザインについては未だに全容が示されておりません。

これまで、ジェイアール東日本旅客鉄道株式会社（以下 JR 東日本）の示すデザイン案を、その都度、市の担当課が受ける形で市民に向けた新駅デザイン説明会を開催し、参加市民に説明を行って来ました。しかし、この間の行政による説明会のあり方、デザイン決定のプロセスに大いに疑問を感じます。

何故なら新駅デザイン案については、平成 18 年～19 年の国立駅デザイン検討会においても、市民要望を含め多くのアイデアが寄せられていますが、その殆どが JR 東日本に一方的に拒否されております。特に遺憾に思いますところは、関係者協議の子細が公表されないことです。

先日の新駅デザイン説明会においても、これまでも示されてきた南面ファサード案がその場限りの映像として提示され、市の要望の筆頭ともいうべきプラットホーム南面の透過性確保（幅員 90m要望）は、当初の45mのまま基本は変わっておりません。

また、駅南口の一部壁面にレンガ調タイルを張り付ける案が示され、タイルの色を三種から選ぶ以外は選択の余地が無いとの説明でした。この件におきましても、何故この三種のレンガ調タイルが新国立駅にふさわしいとの結論に至ったのか説明されておりませんし、選定基準も示されておりません。

本来なら国立市も、駅文化を謳う JR 東日本も、国立の街らしさ、街の個性を、市民とともに広く共有し、全体像を掴みながら新駅デザインを協働して考えることが、事業者でもある市の責務であり、JR 東日本の責務でもあるはずです。このままでは、決定プロセスが著しく不透明であり、効率と安価なことのみ優先した個性の乏しい新駅が出現する可能性が大であります。そのような事態を避け、広く市民が情報共有し、よりよい新駅を作って行くために、新駅デザインの決定プロセスの透明化と子細の公表をお願い致します。

また、同様な意味で、残念ながら現在進行中の「駅周辺まちづくり協議会」でも、事務局の消極性が感じられてなりません。

二度とないこの機会に、今後の国立のまちづくりの根幹に関わる作業を進めているとの認識と熱意をもって担当課には精力的に努力して頂くと同時に、及ばぬところは専門家を交えながら、今後の 50 年、100 年の発展を考えたデザイン検討プロセスと組織に改めて頂くよう強く要望致します。

敬具